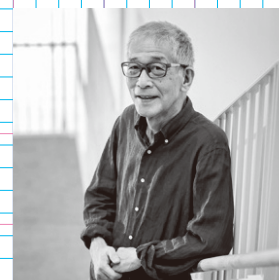


キャンパスミュージアムの使い方を考える

Shizuoka University
CAMPUS
MUSEUM

「キャンパスミュージアムの使い方を考える」は、静岡大学のキャンパスミュージアムのあり方を、キャンパスミュージアムの主役である学生・教員・市民がともに考えあうワークショップです。ミュージアムのプロ・木下直之さん、美学者の吉岡洋氏をディスカッサントにお招きし、キャンパスミュージアムのこれからを一緒に考えてみませんか。さまざまなアイデアを持ったみなさまのご参加をお待ちしております。



木下直之

1954年浜松市生まれ。東京藝術大学美術学部卒業。1980年より97年まで兵庫県立近代美術館学芸員。倫雅美術奨励賞受賞(1990年)、サントリー学芸賞受賞(1993年)、『美術という見世物—油絵茶屋の時代』、芸術選奨文部科学大臣賞受賞(2004年)など受賞多数。2015年紫綬褒章。『写真画論』(1996年)、『股間若衆』(2012年)、『戦争という見世物』(2013年)、『銅像時代』(2014年)、『せいきの大問題』(2017年)『動物園巡礼』(2018年)など著書多数。

静岡大学キャンパスミュージアム (静岡県静岡市駿河区大谷836)

対象 静岡大学の学生・教員・静岡の市民でキャンパスミュージアムの活動に興味をお持ちの方

主催 静岡大学キャンパスミュージアム

お申し込みはこちら https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdGMwiEAPajY6ZqeY-FcA-rWUO5RnP3B3wQW6OUDN8mY31oWpw/viewform?usp=sf_link



吉岡洋

1956年京都市。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授、京都大学教授を経て、現在京都芸術大学文明哲学研究所教授。『情報と生命』(新曜社)『(思想)の現在形』(講談社)他、美学芸術学、情報文化論に関わる著作・翻訳など多数。批評誌『ダイアテキスト』(京都芸術センター)編集長、「京都ビエンナーレ2003」「岐阜おおがきビエンナーレ2006」総合ディレクター。映像インスタレーション「BEACON」プロジェクトメンバー。ロームシアター京都リサーチプログラムメンバー。日本学術会議会員。

2024
1 | 16

火曜日 | TUE. 18:00 – 19:30